

東山古墳のおはなし



ひがしやまこふん
東山古墳のはなし

①

ある日、小学生の ひょうがくせい ことどもたちが みょうけんさん 妙見山の ふもと

に やって きました。 木々に かこまれ、 あれは

てた ちい 小さな山が やま いくつも あります。

こども1 「あれ、この ちい 小さな やま 山は なんや？」

こども2 「あ、むこうにも ある。あっちにも！」

こども3 「この やま 山には あな 穴が あいとるなあ。 あまん

じゃこの いえ 家やるか」

- 多可町歴史街道推進協議会委員
宮崎 和明
川口 昭三
藤井 伊都子
藤井 英延
筒井 かつ子
西田 公世
門脇 謙一
佐藤 俊樹
埴岡 真弓 (播磨学研究所研究員 (コーディネーター))
- 紙芝居制作協力者
村上 裕介 (兵庫教育大学 体育・芸術教育学系准教授)
吉田 侑右 (兵庫教育大学 大学院1年次)
- 紙芝居制作助言者
宮原 文隆 (多可町教育委員会・那珂ふれあい館館長)
安平 勝利 (多可町教育委員会・那珂ふれあい館課長補佐)

東山古墳のはなし

2011年3月初版発行

16場面

発行 多可町
〒679-1192
兵庫県多可郡多可町中区中村町123番地
電話 (0795)32-2380(代)

編集 多可町歴史街道推進協議会

印刷 ヤタベ印刷

②

老人 「コウちゃん、こんなところで あそんどるんか」

こども1 「ああ、じいちゃん。これ、あまんじゃこの

家か？」

老人 「これは古墳とゆうてな、むかしの人の

お墓や」

こども2 「お墓？ でっかいなあ」

こども3 「むかして、どのくらいむかしや？ おじい

ちゃんが こどものころ？」

老人 「はは、もっともっと おおむかしや。そう

やなあ、千年以上もむかしの お墓や」

こどもたち 「ええー、千年?!」



③

こども1 「わあ、 まっくらや」

こども2 「ずいぶん、 ひろいなあ。あ、 コウモリ！」

老人 「この 中にはな、 しんだ人の ために いろ

んなもんが そなえて あった はずなんや。 け

ど、 みんな ぬすまれて しもうたらしい」

こども3 「へえー。お墓やったら たいせつに せなあか

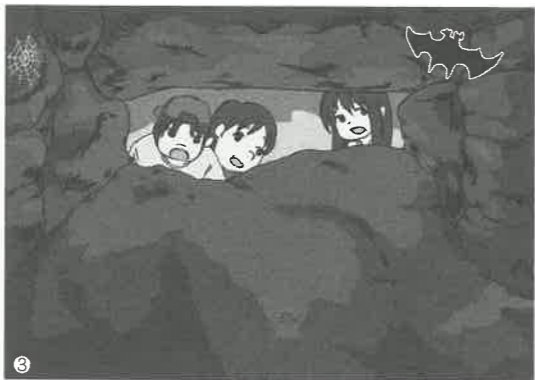
んのに」

老人 「そうやな。 古墳の 数も、 わしが こども

のころは もっと おおかった。 千年以上も 前

の、多可町の 歴史を おしえてくれる、 だいじ

な 財産なんや。 なんとか せんとな」



④

ひがしやまこふんぐん
東山古墳群を 保存する ために、
へいせい ねん
平成8年から

11年^{ねん}まで、 4年^{ねん}間^{かん}かけて 発掘^{はくくつ}が おこなわれ、 1

号墳^{ごうふん}から 16号墳^{ごうふん}まで 10の古墳^{こふん}が 調査^{ちようさ}されました。

その結果^{けっか}、 この古墳群^{こふんぐん}が 7世紀^{せいき}、 今^{いま}から 千四百^{せんよんひゃく}

年^{ねん}ほど前^{まえ}に つくられた ことが わかりました。



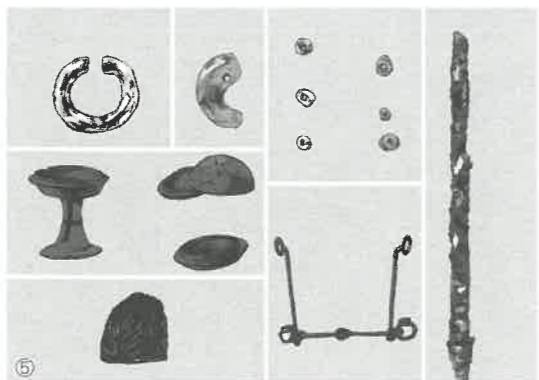
⑤

ひがしやまこふんぐん
東山古墳群からは、
たくさんの
副葬品が
発見さ
れました。

ふくそうひん
副葬品
というのは、
古墳に
ほうむられた
人
に
そなえられた
品の
ことです。

ひがしやまこふんぐん
東山古墳群で
みつかったのは、
金箔を
はった
耳輪、
勾玉、
ガラス玉や、
馬具、
刀の柄、
さ

まざまな
形の
土器
などです。



⑥

ひがしやまこふんぐん
東山古墳群の 12号墳からは、焼き物でつくられ
た棺、陶棺が発見されました。

これは、とてもめずらしいものです。

また、棺をおさめる石でできた部屋を石室

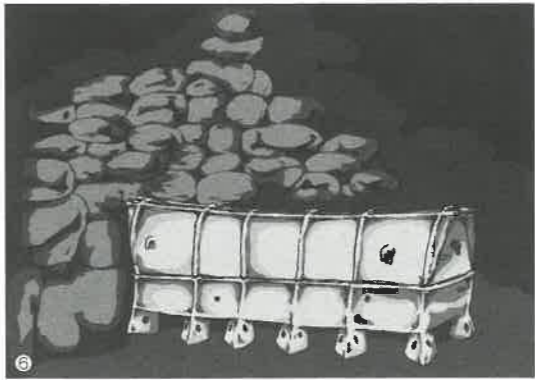
といますが、12号墳の石室はかわった形をしていました。

ほかの石室はおおきな石をほぼまっすぐ

積みあげていますが、12号墳の石室は持ち送り

という技法で、石が上にいくほどせり出してく

る形をしていたので。



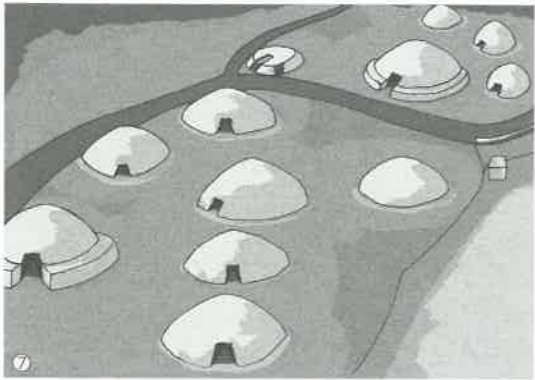
⑦

東山古墳群は、12基の古墳がならぶ古墳公園として整備されました。

そして、貴重な遺跡として、平成15年に兵庫県指定文化財となりました。

平成16年には、古墳公園のとなりに、東山古墳群の資料を紹介する「那珂ふれあい館」がオープンしました。

那珂ふれあい館には、古墳群だけでなく多可町の歴史を知る資料が展示されています。



⑧

ひがしやまこふんぐん
東山古墳群には、
せきしつ
石室の
なが
長さが
10
メートル以上
も
ある
こふん
古墳が
5つもあります。

これらの
こふん
古墳に
ほうむ
葬られたのは
どんな
ひと
人だった
のか、
ざんねんながら、
それは
はっきりしません。

でも、
ねんまえ
1400年前の
たかちよう
多可町に
とても
つよ
強い
力を
もち
こふん
古墳が
いたことを、
ひがしやまこふんぐん
東山古墳群は
はっ

きりと
しめしています。

ところで、
こふんじだい
古墳時代の
ひと
人たちは、
いったい
どの
ようにして、
こんな
りっぱな
こふん
古墳を
つくったので
しょうか？



⑨

村人1 「いよいよ あしたから はじまるぞ」

村人2 「みたことも ないような、 おおきな 墓はかが つ
くられるそうや」

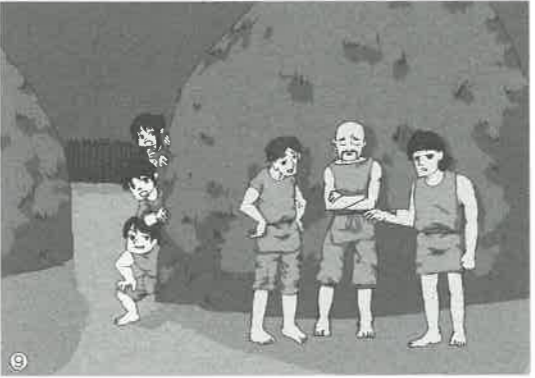
村人3 「とほうもない 日ひにちが かかるやろう」

こども1 「ずいぶん おおきい墓はかを つくるみたいやなあ」

こども2 「どうやって つくるんやろう」

こども3 「わからんけど、 とうちゃんたち たいへんそ

うやな。 おれたちも てつだおうや」



まず、古墳こふんをつくる場所ばしょの周囲しゅういの木々きぎがやきはられました。

それから、墳丘ふんきゅうという、棺ひつねをおさめる石室せきしつをつくる部分ぶぶんの大きさおおがきめられます。

大きさおおがきまったら、自然しぜんのままの山やま、地山じやまをほって、石室せきしつにあたる部分ぶぶんをつくります。

こどもたちは、土運つちはこびの手伝てつだいです。

こども1「いったい、どんだけほるんや？ いつまで土つちをはこばんとあかんのかなあ」

こども2「ほれ、しゃべっとらんで。がんばれ、がんばれ」



⑪

墳丘ふんきゅうの基礎きそになる面めんを、平たいらにととのえま
す。

それから、丸太まるたをならべて、その上うえに大おおき
な石いしをのせてはこび、まず石室せきしつの側面そくめんをつ
くっていきます。

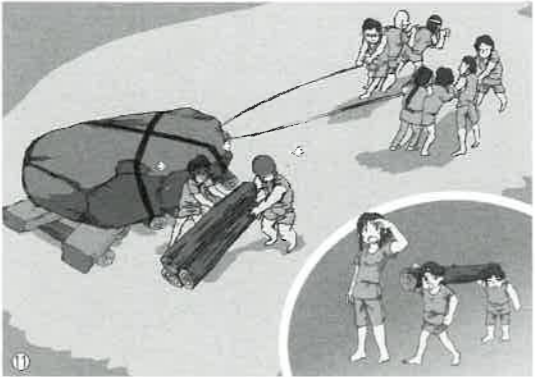
丸太まるたをはこぶ子どもたちは、石いしの大おおきさに
目めをまるくしています。

子ども1「ひゃあ、おもそうな石いしやな」

子ども2「父とうちゃんたち、顔かおがまっかや。よっぽど

重おもいんやろうなあ」

子ども3「早はよ、おれらもはこぼう」



石室せきしつの 側面そくめんの石いしを つみ上げあながら、 墳丘ふんきゅうの ま
 んなかの部分ぶぶん、 中段ちゅうだんを つくっていきます。

おや、 こどもたちが また 土運つちはこびを 手伝てつだって
 いますね。

こども1 「あまんじゃこが おっいたらなあ」

こども2 「あまんじゃこ？」

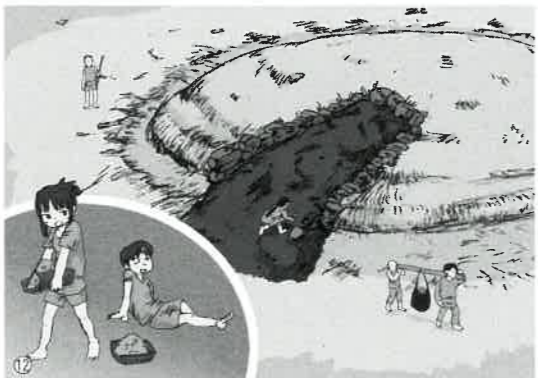
こども3 「じいちゃんが、 あまんじゃこは 山やまを はこ
 んだいうとった。 力持ちからもちちの あまんじゃこなら、

こんな 土運つちはこび あっというまや」

こども2 「あまんじゃこ どこにおるか、 しっとるんか？」

こども1 「しらん」

こども2 「なーんや。 そんなら、 はこばな しょうが
 ない。 がんばろ」



墳丘ふんきゅうの 中段ちゅうだんが できあがると、 天井石てんじょういしが はこば
れ、 のせられます。

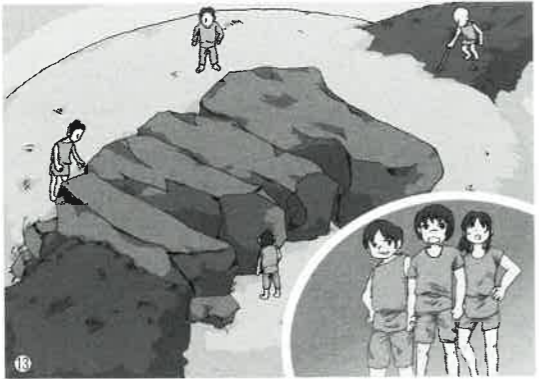
1号墳ごうふんの 天井石てんじょういしは、 10トンとん近い 重さおもが あると
いわれています。

こども1 「おおきいなあ。ほんまに おおきいなあ」

こども2 「あまんじゃこなら、あの石いし、もちあげられ
るやろか」

こども1 「あの石いしの 上うえに、何人なんにんくらい のれるかな」
こども2 「百人ひゃくにんくらい のれるかもしれん」

天井石てんじょういしを のせた後あと、 粘土ねんどで 石室せきしつの まわりを
固かためます。



「ごども1」やっと、できあがったなあ」

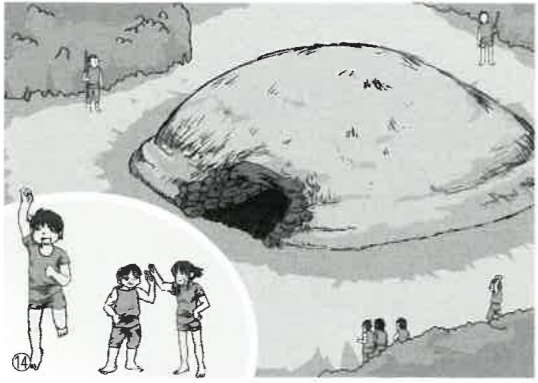
「ごども2」うん、まるで山やまみたいやな」

「ごども1」そうや、なかに おおきな おおきな 石いしで

つくった 部屋へやの ある 山やまや」

「ごども2」あまんじゃこも、だれが こんなところに 山やまを

はこんで きたんか、 ふしぎがるぞ」



古墳は、3世紀の終わりごろから7世紀にかけてつくられました。

兵庫県は、日本一古墳の多い県です。日本全体にある古墳の数の約一割、1万6千以上の古墳がのこされています。

そのひとつである東山古墳群は、多可町の歴史を知るためだけでなく、古墳の歴史を考えるためにも、たいせつな遺跡です。

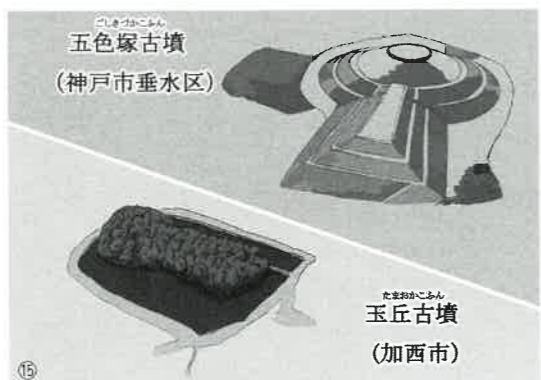
解説

上の図 五色塚古墳（神戸市垂水区）

兵庫県最大の前方後円墳。全長約194m、後円部の高さ約18mである。古墳は復元され、墳丘は葺石で覆われている。4世紀末〜5世紀初頭、国史跡。

下の図 玉丘古墳（加西市）

北播磨最大の前方後円墳。全長約109m、後円部の高さ約9mである。5世紀前半、国史跡。



こども1 「東山古墳群ひがしやまこふんぐんで すごいんやなあ」

こども2 「うん、多可町たかちょうには すごいもんがあるんや」

こども3 「たいせつにせな あかんな。もっと もっと

むかしの こと しりとうなったわ」

多可町たかちょうの 名山めいざん、妙見山みょうけんざんの ふもとに つくられた

東山古墳群ひがしやまこふんぐん。

古代こだいと 呼よばれる つぎの 時代じだいになると、 近くちかに

多可寺たかでらという 古代寺院こだいじいんが 建たてられました。

いまの 量興寺りょうこうじに、 その 古代寺院こだいじいんの 礎石そせきが の

こっています。

古墳こふんから お寺てらへ。 古墳時代こふんじだいから 古代こだいへと うつ

り変かわって いった 歴史れきしの ながれが、 多可町たかちょうの

風景ふうけいの 中なかに しっかりと きざまれて いるのです。

おしまい

